

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590100673		
法人名	株式会社 プリンク		
事業所名	グループホーム ゆず (こまちユニット)		
所在地	秋田県秋田市仁井田本町三丁目10-18		
自己評価作成日	平成27年11月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成27年11月25日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年の4月に2ユニットをオープンしました。平屋建てで敷地が広く、ホールの窓から庭に出れるようになっていきます。庭には家庭菜園があり、苗の植え付けから収穫まで一緒に行っています。施設の近くには公園があり、春には桜が秋には紅葉が楽しめます。町内会の夏祭りや清掃活動に利用者様と参加しています。一人ひとりの希望を聞き、ドライブや季節行事を行い職員も一緒に楽しんでいます。出来ることは何でもやってもらうようにしており、普段の調理や掃除、洗濯など、女性利用者様だけでなく、男性利用者様にもお手伝いしていただいています。筋力低下をしないように所内の散歩・体操をするように心がけ、天気の良い日は外に出かけるようにしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所を開所して7ヶ月目の新しい事業所であるが、他に短期入所施設等を経営しており、介護保険事業運営に関する知識及び実践が豊富である。中でも特に力を注いでいるのが、職員の人材育成であり、各種研修会への参加及び事業所内伝達研修が確実に行われており、質の高いケアの実践に繋がっている。また、各種記録に関する意識づけがされており、ケアマネジメントのプロセスに基づいたケアを実践し、適正な記録がされていることが確認できた。日々のケアに関しては、事業所の理念に基づき「利用者の尊厳を大切に」という姿勢でチーム一丸となり取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員一同で考え、決めた。所内、数ヶ所に掲示することで把握、共有し実践につなげている。	職員で作り上げた理念が職員間で浸透しており、理念に基づいたケアが提供されている。また、管理者やリーダーが常日頃から職員に対して理念の大切さを伝え、全職員が意欲的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り夏祭りや町内清掃、防災訓練などに参加している。運営推進会議に民生委員、町内会の方々に参加していただいている。散歩時に積極的に挨拶を行うようにしている。	地域の町内会長さんからの声掛け等により、地域で開催されている各種行事に参加している。また、運営推進会議等を活用し、地域との繋がりを大切にしている。	「施設に対する地域住民の力の活用」と「地域の中の社会福祉施設の役割」についての検討を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の行事に積極的に参加し、交流を図っている。施設をいつでも見学できるようにしている。地域貢献はまだ出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、会議を開催し、入居者の状況等の報告を行い地域の方々との話し合いをサービスの向上に活かしている。	利用者の家族や地域包括支援センター職員の参加も得られ、事業所における課題等について助言を頂き、事業に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護者を通じて市役所との連絡調整や地域包括支援センター、町内との協力関係を築くように努めている。	地域包括支援センターの他に消防署等とのつながりがあり、事業を運営する上でのアドバイスを頂いている。また、今後は警察署等との協力関係を検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、居室の窓等、日中は鍵をかけないようにしている。身体拘束となる項目を確認し、話し合い、声かけし合うことで考えて動いている。	身体拘束防止に関する研修を実施しており、全職員が身体拘束に係る弊害を理解している。また、日頃のケアでもリーダーが中心となり、身体拘束防止について常に問題意識を持って取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の申し送り、介護等を通じて職員間で再確認し、注意、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居前の情報として、これらの制度を利用しているか聞いている。現在、弁護士さんとも話し合う機会を持ち本人を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が入居前に説明している。不安や疑問等は、その都度対応し解決するように動いている。必要な情報は職員に伝達し、共有している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加してもらっている。面会時に意見、要望を聞くように心がけている。	職員は、利用者や家族からの要望等は、より良いケアに繋がる大切な事であることを理解しており、いつでも要望等を聞き入れる体制づくりに励んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ユニット会議を開催し意見を聞くようにしている。	より良いケアに結びつけるために、日常業務における改善点や意見等を職員間で話し合い、ユニット会議等に提案している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	不安な事等、上司に相談している。毎月、職員同士が話し合える会議を開いているが、まだ十分ではない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を職員へ通知しているが、参加は少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田市ケアパートナーズに参加し研修会や意見交換する場を設けている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の様子をうかがい、本人、家族から希望、要望がないかその都度、聞いている。声かけを多くし話を傾聴、笑顔で接することで信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族の意向、要望等を必ず聞くようにしている。事前訪問や契約時等は出来るだけ時間を作り個々の対応についても話し合うようにしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の経験してきたこと、得意なことを教わり、洗濯や調理等、出来ることを手伝ってもらっている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を家族に伝えている。仕事が終わってから面会に来れるようにしており、外出や外泊、電話など自由に出来るようにしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた際には談話室、談話コーナーを自由に使っていただき、ゆっくり過ごしてもらえるように配慮している。	利用者個々のこれまでの生活歴を把握した上で、馴染みの関係が途切れる事のないよう、職員間の情報共有を図り対応している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席を調整したり、隣のユニットの方々と交流時間を持つようにし、仲間意識をもてるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談に応じるように窓口を開いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望、意見を聞き逃さないように日々の関わりを大事にしている。本人の意向をうかがい、困難な場合は家族や介護職員からの意見を参考に検討している。	利用者との日常的な会話や表情観察を通して、利用者個々の想いや希望の把握を行っている。また、利用者の想いや希望は職員間で情報共有され、チームとしてのケアを行っている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの基本情報を作成し、モニタリングを行っている。普段の会話を通じて、どのような生活をしてきたか把握するようにしている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日により、出来ること、出来ないことを見極めて対応するようにしている。朝、夕の申し送りで、その日の状態を職員全員が把握できるようにしている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の変化、更新時に合わせアセスメントを行い、サービス担当者会議にて意見を出し合い介護計画書を作成、家族に説明している。	利用者個々の想いや希望に寄り添った計画を作成し、その内容が実践に繋がってる。また、管理者やリーダーが記録の大切さについて適宜職員に対してアドバイスをしており、記録も整備されている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録している。サービス担当者会議において情報や意見を介護計画書に反映している。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事、ボランティア、消防署等の協力を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望している病院を受診している。受診時の送迎の手伝い、状態の報告等している。	利用者の健康状態については、常に家族との情報共有を図っている。また、病院や薬局との連携強化を図っており、誤薬防止に関しても積極的に取り組んでいる。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護が勤務し、状態報告、相談している。また、24時間電話対応しており、緊急時等は指示にて受診等している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に病院とカンファレンスを行い、情報交換している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化があった場合は訪問看護と24時間連絡を取り合える体制にあり、協力医に報告、指示を仰いでいる。	入所時に重度化した場合及び終末期等の対応について、利用者本人及び家族と面談し方向性を定めている。 また、看取りに係る支援技術の向上を目指すための研修を今後実施する予定である。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修を全員が受けている。急変時ほどの時点で救急車を呼ぶか決めている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所の確認や避難訓練を利用者と一緒に行っている。地域の防災訓練に職員が参加し、地域の方との協力を築くよう努めている。	非常時の対応について職員一人ひとりが意識しており、迅速かつ適正に対応できるよう定期的に訓練等を実施している。また、今後は地域住民との協力を図り対応できるように検討を進めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いを心がけている。職員同士でも注意するようにしている。	利用者一人ひとりの人権や想いを大切に、利用者個々に寄り添ったケアに取り組んでいる。また、個人情報等に関する研修を実施し、職員の資質向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話を傾聴し、話しやすい環境、雰囲気を作るように心がけている。自己決定できるように選択肢を挙げる等の対応をしている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や状態に沿ったペースで生活している。何事も無理強いする事なく本人の自分らしい生活を大事にしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	見守りや声かけ、一緒に選ぶようにし、本人の意思、好みに合わせている。美容師に2ヶ月に一度来ていただいている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居前に禁食、好き嫌いを聞いて情報を共有している。状態に合わせて食形態を変えている。利用者と一緒に食事の準備、片づけをしている。	数名の利用者が、日頃から食材の下ごしらえや食事の準備等を行っている。また、事業所前の畑で収穫した野菜等が食卓を彩り、食事の際も日常的な会話をしながら、食事を楽しめるよう配慮されている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録している。糖尿病の方、塩分制限がある方は別に味付けしている。状態に応じて食形態を変えている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ、促しにて本人に見合った介助をしている。口腔状態を把握し、場合により歯科往診を受けている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記録し、その人に合ったトイレ誘導、声かけを行っている。声かけにより日中のオムツがとれた方もいる。	利用者個々の状態に応じ、さりげない声掛けにより、排泄に係る自立支援のケアに取り組んでいる。また、入院中にリハビリパンツを使用していた利用者が、退院後、職員のより良いケアにより失敗する回数が軽減し、布パンツを使用している事例を確認することができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況、水分量のチェックをし、運動や体操する時間を作るようにしている。出にくい方には腹部のマッサージをしている。看護師や医師と相談し服薬調整をしている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間帯は、こちらで決めてしまっている。入浴日を週何回と決めずに好きなだけ入れるように努めている。無理強いしないようにしている。また、足浴を行っている。	利用者の希望に応じた入浴ケアを行っている。また、入浴を好まない利用者に対しては、本人の想いを汲み取り、足浴や清拭等に対応したり、さりげなく入浴に誘うなど工夫されている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じてかけ布団の調節や温度を設定している。居室だけでなく、ソファでも自由に休んでもらえるようにしている。読書やテレビ、ボランティアによる楽しみなど一人ひとりの休息や楽しみ、安心する気持ちを大事にしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理ファイルを用意し、一人ひとりが飲んでいる薬の把握に努めている。薬が変更になった時は申し送り、記録で全員に周知するようにしている。医師や訪問看護に状態を報告し、指示を仰いでいる。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、掃除等、各自の得意な事を活かして、自分の役割や達成感を得られるように支援している。全体でのレクリエーションや個別のレクリエーションを行っている。行事や誕生日会を行い、楽しんでもらえるよう努めている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの要望に添って外出、外泊を行っている。ドライブ、散歩、買い物等なるべく外出の機会を設けるようにしている。	施設全体で外出する機会は少なくなっているが、利用者個々の意向を叶えた個別外出を行っており、利用者からも喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望を尊重し家族と相談のうえ判断している。本人の日用品を一緒に買いに出かけている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人宛にきた手紙類は本人に手渡している。電話も早朝や夜間を除いて自由に使えている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは季節に応じた飾り付けを行い、皆がくつろげるように配慮している。玄関や談話コーナーの一角に利用者が自分で飾りを置いて楽しんでいる。	館内の清掃が行き届いており、快適な生活環境が提供されている。また、ホール以外でも少人数で懇談できるスペースが確保されており、利用者及び家族からも好評を得ている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室や談話コーナーにもソファを設置している。自由に座り、仲間同士でおしゃべりを楽しんでいる。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、今まで使っていた物を自由に持ち込んで良いことを説明している。居室で好きなCDを聴いたり仏壇に水を供えたり自由に過ごしている。	利用者が入所前まで利用していた家具等が持ち込まれており、それぞれの好みに応じた居室になっている。また、利用者それぞれの思い出の写真等が掲示されている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂の場所がわかりやすいように矢印をつけたり、居室がわかりやすいように目印となるものを飾っている。机やソファの位置を変えたり、歩行の妨げにならないように障害物を置かないように気を付けている。		